

## 令和元年度 国立療養所長島愛生園附属看護学校における学校関係者評価会議結果報告

長島愛生園附属看護学校は、業務基準準則の学校関係者評価会議をもとに、学校関係者評価会議を実施いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

1. 日 時 令和2年3月6日(金) 11:00~12:00
2. 場 所 長島愛生園総合診療棟 中会議室
3. 出席者
  - 1) 評価委員3名
    - (1) 園内講師  
川野かおり：国立療養所長島愛生園看護師長
    - (2) 卒業生  
岡田 由紀：国立療養所長島愛生園副看護師長
    - (3) 外部講師  
山本 正：瀬戸内市教育委員会教育委員、元中学校校長、元特任教授
  - 2) 学校関係者6名  
山本 典良：長島愛生園附属看護学校 学校長  
安野 豊：長島愛生園附属看護学校 事務長  
林 初美：長島愛生園附属看護学校 教育主事  
岡田 日鶴：長島愛生園附属看護学校 実習調整者  
折野 早苗：長島愛生園附属看護学校 教官（1年生担任）  
遠藤 裕子：長島愛生園附属看護学校 教官（2年生担任）
  - 3) 欠席1名
    - (1) 評価委員（卒業生） 難波 美香：国立療養所長島愛生園副看護師長
4. 会議の概要
  - 1) 委員紹介
  - 2) 学校関係者評価委員長の選出
  - 3) 書類審査
    - (1) 教育活動に関する事項
      - ①各年度の教育計画に関する事項（学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス）
      - ②学生の学修支援に関する事項（各学年年間計画、国家試験対策）
    - 2) 学校運営に関する事項
      - (1) 自己点検・自己評価の結果  
（平成30年度学校相互評価受審結果、令和元年度自己評価、自己点検結果）
      - (2) 卒業生カリキュラム評価（平成30年度、令和元年度）
  - 4) 講評

## 5. 学校関係者評価総評

### 1) 教育活動に関する事項について

教育理念、教育目的、教育目標については、概況書に教育理念、教育目的、教育目標が示されているが、学校経営や運営にあたって最も大切なところである。先生方で繰り返し見直すことが大切である。結果的に修正がなかったとしても、長島愛生園附属看護学校のミッションを確認することができる。この学校は、現在、学生数の減少という問題に直面している。困難にぶつかったとき、改めて学校の存在意義やミッションを見直すことに意味がある。長島愛生園に附属する看護学校だからこそ存在意義があると思う。それを長島愛生園の入所者の皆さん、職員の皆さん、すべての関係者で共通理解することが大切である。

### 2) 学校運営に関する事項について

#### (1) 自己点検・自己評価の結果について

[＜平成 30 年度学校相互評価受審結果 平成 30 年 10 月 29 日実施＞PDF 参照](#)

[＜令和元年度自己評価、自己点検結果 令和 2 年 2 月 28 日実施＞PDF 参照](#)

- ・「教育理念・教育目標が学生の指針になるように具体的か」について平成 30 年度審査後評価で 2→3 になっているが、ここは先に述べたようにとても大切なところである。
- ・「卒業時点で持つべき資質は、社会のニーズに応えるものか」について 3 の自己評価が審査後に 2 にされている。その理由に、学生による「カリキュラム評価」が行われていないからだとされている。しかし、ここでは卒業時点で持つべき資質なるものを明確にして、それを教育理念や教育目的にきちんと表現しているかどうかということだと思う。資料の中の 1・2 年生のクラス運営の中でも、この目標の下での育成に力を入れていることがうかがわれる。
- ・「教育課程経営」では、「教員の教育・研修活動の充実」の項目において自己評価 2 が審査後 3 になっている。自己評価 2 が先生方の気持ちではないかと思う。先生方は「もっと良い指導ができるように勉強したい」と思っている。しかし、なかなか余裕がないのではないか。「教員の教育・研修活動の充実」は、学校経営の柱にしても良いぐらい重たいものである。そのためには、みんなでテーマを決めて年度末にそれぞれの実践報告を行うということも考えられる。また、教官会議も大切な研修の場だと思う。日々の実践から、教育の現状と何をめざすのか共有することが大切である。
- ・評価委員より質問：2 年次の母性と小児について臨地実習終了後に講義を受けていることについて、学習進度が変わることで何か困ることはあるか。  
学校より返答：母性、小児、成人の実習は岡山医療センターでしている。そのため、一病棟での実習人数の関係があり岡山医療センターの学生が病棟でいない時期の 7 月～9 月にまとめて実習をしなければならないので講義より実習優先になる。実習施設には、指導者に学習状況を説明して、不足しているところは事前学習で補っている。講義をすべて終えていないことを指導者に理解していただいて学生指導をお願いしている。実習後に講義を受けることについては、小児や母性は、実習での学びを生かして講義を受ける際に看護がイメージしやすいこと、また、国家試験学習に結び付いている。

(2) 卒業生カリキュラム評価（平成 30 年度、令和元年度）

[＜卒業生カリキュラム評価年度比較＞PDF 参照](#)

[＜卒業生カリキュラム評価（平成 30 年度）＞PDF 参照](#)

[＜卒業生カリキュラム評価（令和元年度）＞PDF 参照](#)

- ・評価の対象がカリキュラムに限られていないので「学生による包括的な学校評価」ではないかと思う。個々の学生の具体的なコメントが載せられていてとても良いと思う。学生は少人数でも、百分率ではわからない大切な手がかりがそこにあるように思う。
- ・評価委員より質問：卒業生へカリキュラム評価を実施しているが、在校生、1 年次の評価はどのようにしているのか。1 年生の時に評価をすることで変化が見られるのではないか。  
学校より返答：1 年生には、各講義終了後に授業評価を実施している。講義内容や教授方法、自己の学習姿勢についての評価をとり、教官はその評価内容を確認して次回の講義に活かしている。教官以外の講師については、評価結果を提示はしていない。現在、公開もしていない。希望があれば提示していく。

(3) その他

「学生募集について」

- ・評価委員より質問：指定校との関係を維持すること、近隣の看護学校・衛生看護学科（岡山・香川）などの学校訪問を行い、入学をしている学生の様子を伝えるなど連携をしていくことが大切である。  
学校より返答：令和 2 年度指定校は 10 校（20 名）あり、近隣の学校訪問は毎年実施している。看護部長と共に学校訪問をしている。現在、18 歳人口の減少とレギュラーコースへの進学などで准看護師になる学生が減っている。特に山陰地方で学生数の減少が激しく、指定校で令和 3 年～4 年に閉科、閉校する学校が 2 校となった。また、岡山の児島准看護学校も令和 2 年の入学生が最後の学生となり、閉校予定である。学生確保については厳しい状況である。

以上